

教組米沢

2020 年度 第 19 号
12 月 7 日発行

米沢市教職員組合
米沢市門東町 2-3-27
米沢教育と文化の会館
TEL (0238) 23-1542
FAX (0238) 23-1560
https://yonezawa-tu.jp/
Mail: ytuandztu@lemon.plala.or.jp

子どもたちに少人数学級を！ ～安全・安心・つめこみしない～

— すべての職場からの署名をすすめてみましょう —

新型コロナウイルスの感染拡大により、全国の学校は一斉休校や分散登校、子どもたちが楽しみにしていた行事の中止、詰め込み授業など、大変な苦勞を強いられています。全国で少人数学級を求める声が高まっています。

四十人学級が密を避けられないこと、一斉休校の遅れを取り戻すには教育課程があまりに過密だったことなど、学校の現状が改めて浮き彫りになりました。

さんさんプランだけでは 少人数学級にならない

山形県は前の齋藤知事がストップさせた「さんさんプラン」を吉村知事が小中全学年で完結させ、全国でもトップレベルの少人数学級編制を県独自で行っています。しかし学年1学級の場合四十人学級のまま（多人数単学級）であること、加配をするため臨時の先生が多くなってしまうなどの問題点も残っています。

一方で分散登校のときは、子どもの表情がよく見える、授業がわかりやすいなど、少人数学級の良さを子どもも先生も感じることができました。

す。そもそも県の予算だけでは、今後もさんさんプランが継続できる保障はありません。一刻も早く国の学級編制基準を変えさせ、三十人以下学級を実現させなければなりません。

このほど著名な教育研究者有志の署名運動の呼びかけに応え、山教組の呼びかけによって「少人数学級をすすめる県民の会」が結成



約120人が集った少人数学級学習交流集会（11月15日）

本田由紀・
東京大学教授



されました。十一月十五日には山形市ビックウイングで、全国署名呼びかけ人の一人である本田由紀さん（東京大学教授）を招き学習交流集会を



呼びかけ人代表の
高木紘一・山形大学名誉教授

開催しました。県内各地で賛同の署名が広がっています。この署名は教育研究者の方々が全国から集約し、国・文科省に直接要請することになっています。ぜひ米沢でも署名運動を進めましょう。



小学校、中学校、地域、
発達臨床の現場からの
リレートーク

類想類句

私は米沢革新懇のホームページに「米沢探訪」を連載しています。最近その写真を撮りに、久しぶりに北山原の森英介詩碑を訪ねてみました。

碑文にはありませんが、森英介（本名佐藤重男）は終戦直後の一九四六年、米沢で雑誌「労農」を創刊し、地方からの社会改良をめざす青年運動に取り組みましたが、占領政策の転換で挫折し、わずか3号で休刊します。その後詩集「火の聖女」を自主出版。高村光太郎をして「これほど魂のさしせまつた聲を未だ嘗てきいたことがない。私はおそろしい詩集を見た」と言わしめました。刊行される直前に急死。享年三十三歳でした。

今、山形大学工学部の学生が、コロナ禍でアルバイトができず困窮する仲間のために、「フードドライブ」を設立し、日用品や食料の支援をしています。いつの時代も、社会をより良くしようとするエネルギーは青年から生まれるものです。

学校でも青年教師の皆さんが増えてきました。ぜひエネルギーを学校の外にも向けてほしいと願っています。

（書記長）

米沢の誇る「市直営・自校調理」の 学校給食を守ろう

現在米沢市教育委員会に「学校給食検討委員会」が設置されています。これまで主に「調理方式」について検討が進められています。市教委は、中学校の統合後は小学校からの親子方式の存続が困難だとして、給食センター化や民間委託を検討しているようです。

米沢の学校給食は、市の職員を配置する「自校直営方式」で自校調理が行われ、アレルギー除去食への細やかな対応や地産地消の推進、環境への配慮など、全国にも誇れる給食が提供されてきました。その一方、中学校自校調理への要望はなかなか叶わず、小学校の調理室で午前中に中学校向けと自校分の二種類を調理する負担も解消されていません。また調理室にエアコンが整備されていない学校が多く、食品の安全性や調理師の方々の健康の保持にも課題が残っています。



調理師さんなど約 40 名が参加した対策会議 (11 月 7 日)



「米沢の学校給食をよりよくする会」が結成され、自校調理の維持と中学校での実施を求める署名運動が進められています。十一月七日の対策会議には、調理師さんや栄養教諭、市議会議員などおよそ四十名が参加し、情報交換と今後の活動を話し合いました。学校給食は、教育の一環

です。これまで自校調理であったからこそ、調理師・栄養教諭・栄養士さんと子どもたちの心が通い合う豊かな食育が行われてきました。細やかなアレルギー対応除去食の提供も、自校調理だからこそできることです。効率優先のセンター化や、もうけ優先の民営化にさせず、米沢の学校給食をさらによりよくするため、署名へのご協力をお願いします。

米沢の給食は ここがすばらしい

(米沢では当たり前のことも、実は……)

◆ 市直営の学校給食

調理師は市の職員です。米沢市が給食に責任を持っています。(→ 他市では、ほとんど民間業者への委託です)

◆ 自校調理

校内で調理し、子どもたちと心の通い合う食育が行われています。(→ 他市では、給食センター化がすすんでいます)

◆ アレルギー対応

一人ひとりに細やかな「除去食」が提供されます
(→ 他市では、細かく対応できないため、自宅から弁当を持ってくる子どもが多くいます)

◆ 環境への配慮

合成洗剤を使わず、調理で使用した廃油を再利用した石けんを使用しています

◆ 地産地消

長年、地元の農家や商店から安全でおいしい食材が提供されています (→ 他市では安値優先の共同購入です)

署名で、以下のことを要請します

- 1 中学校にも調理室を整備し、自校調理による学校給食を実施してください
- 2 小学校では引き続き自校調理を行い、食育を推進してください
- 3 調理室にエアコンを整備し、食品の安全性と調理師の健康を守ってください
- 4 アレルギー除去食の提供に万全をつくしてください
- 5 環境への配慮、地産地消をいっそう推進してください

